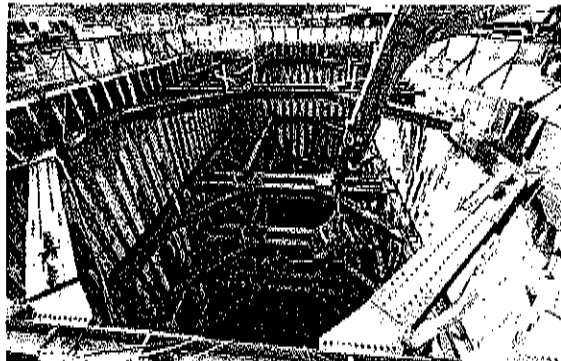


# デブリ取り出し遅々



●処理水の放出に使われる立て坑の掘削工事現場。多核種除去設備（ALPS）＝1日、福島第1原発（代表撮影）

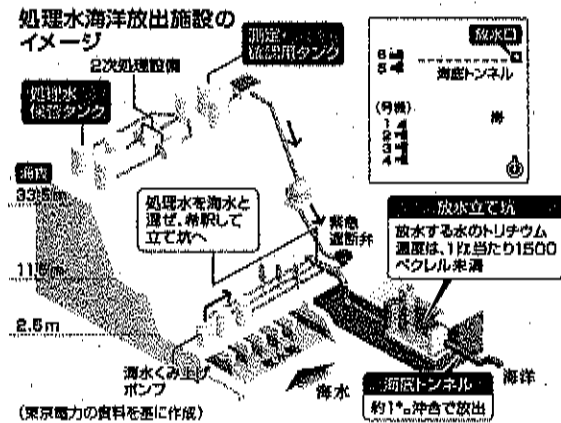
## 福島第1原発

# 海洋放出は着々

東電が福島第1原発事故の発生から1年。今年3月には、事故の原子炉格納容器内の調査が始まりましたが、掘削された核燃料（デブリ）の全容解明にはほど遠く、事故収束の道筋はみえていません。一方、政府と東電は、タンクにためた処理水の海洋放出に向けて前倒りで突き進んでいます。（原簿取材班）

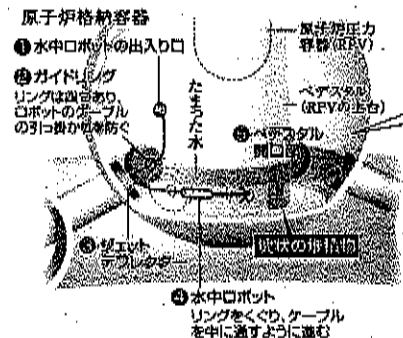


原子炉格納容器（マルチタンク）を掘削したところ、機械の原水蒸気が凝縮しており、その子細調査中に雨水や地下水が流入し、日々、汚染水が増え続けています。国民置き去り  
この汚染水からセシウムなどを除去したアルプス（ALPS）処理水には、放出基準値よりもはるかに

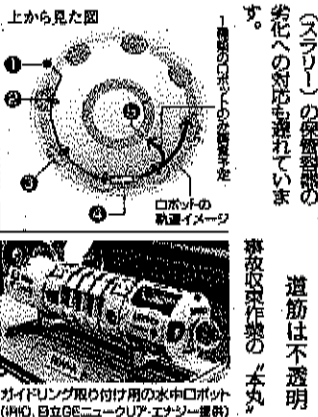


処理水海洋放出施設のイメージ  
（東京電力の資料を基に作成）

る福島県民の不安をほぐすための抑制対策の一つ「原子炉格納容器内の調査」では、ララルが現時点を過ぎたにすぎず、汚染水問題の根本解決の見通しは依然として不明です。汚染水の処理過程で発生する泥状の放射性廃棄物  
一方、海床への地下水流



原子炉格納容器  
① 水中ロボットの入出口  
② ガイドリング  
リングは四角のロボットの水口の3に掛かると防ぐ  
③ 水口中ポート  
リングをくり、ケーブルを中に通すように進む  
燃料取り出しは半年ほどです。2011年以降、24、26年度、毎機は2、28年度の取り出し開始をめぐり、準備作業を進めています。全体の取り出しは91年です。



道筋は不透明  
事故収束作業の本丸  
とされるのがデブリ取り出しです。核燃料や炉心構造物などが溶けて垂り冷え固まったものがデブリで、その総量は推定で1000トン程度。どうやって取り出すのか、道筋はまったく不明です。2011年、ロボットによってデブリを取り出すことが、採取するのほわすか敷です。1号機では先月、水中ロボットによる格納容器内の調査で堆積物を確認。デブリの状況や分布を調べるのがこれからです。東電は、燃料取り出しは半年ほどです。2011年以降、24、26年度、毎機は2、28年度の取り出し開始をめぐり、準備作業を進めています。全体の取り出しは91年です。